

学校関係者評価報告書

1 自己評価の報告の概要

- ・ 保護者と教職員を対象にしたアンケート結果では、ほぼ全項目に関して肯定的な評価（A+B が90%以上）が出ている。その中で90%を若干下回るものは、「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」「情報発信」であった。
- ・ 教職員については前年度と比べ、大きな変化はなかった。

以下は保護者アンケートについて

- ・ 肯定的評価の割合が高くなり（1項目を除く）、4項目は前年度比で5ポイント以上改善した。
- ・ 昨年89%（A：44%、B：45%）であった「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」については、89.7%（A：41%、B：49%）と幾分改善が見られたが、質問項目の中では最も低い。
- ・ 昨年89%（A：47%、B：42%）であった「進路指導」については、94%（A：45%、B：49%）と改善が見られた。
- ・ 昨年90%をわずかに下回っていた「情報発信」については、97%となり大幅に改善した。

2 評価委員の評価結果

- ・ 保護者の肯定的な意見が増えているのは、学校の努力の成果である。細かな対応ができていないところに対して、意見が出てきているのではないか。全体的には、取り組みの結果により、良い評価になっている。
- ・ 行事が少なくなり、保護者が得られる情報が少ないのではないか。ブログなどで情報発信しているのはありがたい。
- ・ アンケートの方式及びまとめ方等の変更により、結果や否定的な評価の理由がよくわかるようになった。

3 評価委員の提言

- ・ ①細かい対応ができていない部分、②行事が少なくなり保護者が情報を得にくい状況、③PTA活動ができないことによるその活動場面での交流機会の喪失、が否定的な意見につながっているのではないかと、いう指摘と示唆をいただいた。また、それに関連して、ホームページやオンラインの活用についての示唆もいただいた。

4 学校関係者評価を踏まえた改善方策

「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」について

- ・ 引継ぎについて懇談の機会を確認し、必要に応じて保護者に説明する。
- ・ 引継ぎ資料の内容の精選を図り、より活用しやすくなるよう検討するとともに、引継ぎ会の設定の仕方を工夫する。
- ・ 全校レベルでの教科会議の充実を図り、各学部の取組について教職員の共通理解を促進することで、一貫性を高める。
- ・ 他学部とコラボレートした教育活動を充実させる。